

東京23区が
見える。わかる。

2019 AUTUMN

Vol.38

ワンツースリー One23

公益財団法人特別区協議会 特別区自治情報・交流センター発行の東京23区情報誌

特集 各区の歴史や文化を知ろう!

■各区の歴史や文化を知ろう!

北区…飛鳥山博物館

江東区…深川江戸資料館

品川区…品川歴史館

渋谷区…白根記念渋谷区郷土資料館・文学館

新宿区…新宿歴史博物館

杉並区…郷土博物館

■クマなくさんぽ

…熊本藩細川家ゆかりの地で時代に思いを巡らせる。

文京区立 肥後細川庭園 松聲閣

■所蔵資料蔵出し

…「大正大震災大火災」



もっと活用しよう!

特別区自治情報

こんなことしたよ

港区観光プロモーション展示 ～とっておきの1日を港区で～

公益財団法人特別区協議会と港区との共催による「港区観光プロモーション展示～とっておきの1日を港区で～」を東京区政会館1階にて開催しました。

今回の展示では、「港区観光フォトコンテスト2018」入賞作品の展示をはじめ、「港区ワールドプロモーション映像」の放映、「MINATOシティプロモーションクルー認定事業」に認定された企業等による区の魅力発信の取組を紹介しました。

また、VRで港区内の観光を体験することができる「VR体験会」、各ブースにあるスタンプを集めると記念品がもらえる「スタンプラリー」も開催しました。

港区の素晴らしさや多くの魅力を発見し、港区を訪れたいと思うきっかけとなる展示となりました。



PRを行うとくべつクマ®



VR体験会の様子

こんなことしたよ

大田区立勝海舟記念館オープン記念展

公益財団法人特別区協議会と大田区との共催による「大田区立勝海舟記念館オープン記念展」を東京区政会館1階にて開催しました。

今回の展示では、勝海舟の生誕の地である墨田区、邸宅のあった港区と連携をし、3区合同企画として、大田区と勝海舟とのゆかりや、勝海舟記念館の展示資料等を紹介しました。

大田区では、勝海舟の眠る大田区洗足池の畔に、9月7日(土)に勝海舟記念館をオープンしました。国登録有形文化財である「旧清明文庫」を保存・活用し、全国初の勝海舟記念館の魅力を知っていただき、足を運んでいただくきっかけとなる展示となりました。



墨田区・港区との連携



展示の様子

こんなことやるよ

北区と深谷市 パネル展示 ～新一万円札の顔渋沢栄一翁が繋ぐ～



渋沢史料館所蔵

渋沢翁写真

東京区政会館1階エントランスホールにおいて、～新一万円札の顔渋沢栄一翁が繋ぐ～北区と深谷市 パネル展示を開催します。

2024年に刷新する一万円札の「顔」に渋沢栄一翁が採用されることが決まりました。日本資本主義の礎を築き、「近代日本経済の父」とも称された渋沢翁。このたび、新一万円札の肖像に採用されたことで、社会の注目が一気に高まっています。

渋沢翁は、現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれ、東京都北区飛鳥山で91年の生涯を閉じました。この生涯の中で、渋沢翁は、徳川幕府、明治政府に仕え、そして実業家へ転身するなど様々な顔を持ち、日本の近代産業の振興、民間外交の展開、教育の発展、社会福祉事業の推進に多く携わっています。「生誕の地」である埼玉県深谷市と「終焉の地」である東京都北区は、これを機に連携・協力をして渋沢翁の功績を広めていく協定を結びました。

この展示会では、両市区に今なお残る渋沢翁の足跡を紹介するとともに、それぞれのまちの魅力を展示します。

展示
スケジュール

開催日:令和元年10月1日(火)～11月2日(土)(日曜・祝日を除く)

展示時間:平日 午前9時～午後8時30分

土曜日 午前9時～午後5時

会場:東京区政会館1階エントランスホール
(千代田区飯田橋3-5-1)



深谷市イメージキャラクター
ふっかちゃん



City of Kita

共催:北区、深谷市、公益財団法人特別区協議会 協賛:公益財団法人渋沢栄一記念財団 渋沢史料館

・交流センター

特別区自治情報・交流センターとは？

23区(特別区)と地方自治の専門図書館として約9万6千冊の資料を所蔵しています。特別区や地方自治について知りたい、調べたいときなどにご利用ください。

所蔵資料
蔵出し

おすすめのほんだよ

特別区に関する資料から読み解いてみよう！



▶▶「大正大震災大火災 (大日本雄辯會・講談社)」

大正12年10月1日発行

本書は大正十二年九月一日に起こった関東大震災についての記述です。
今回は、本書を通じて大正十二年に起きた大地震の様子をみていきましょう。

大震・大火災

午前11時58分に発生した大きな揺れ以降、3日間で1700回もの余震を記録しました。これは、地震国と呼ばれる日本が平均3年分に経験する地震の回数でした。また、本文にも「大震と大火！真に筆舌を絶する大災害であつた。」とあるように被害を及ぼしたのは地震だけではありませんでした。お昼時であったため、多くの家庭が火を扱っており火災の影響が大きかったのです。市内76ヶ所から猛火は燃え上がり、東京市の大部分を焦土させました。判明死者74,000人、行方不明者20万人余りという死者の数から考えても被害が甚大であったことが伺えます。

震災が生んだ新商売

震災後多くの人々が職業を失い、職業紹介所に押しかけました。そのようななかで、新しくあらわれた商売もありました。その一つが金庫破りです。この金庫破りは多くの人でごった返している焼跡の大道を、鉄棒金挺大金鉋などの危険な七つ道具を肩に、「金庫破り」と書かれた旗を持ちながらあちこちを横行していました。街に残された金庫を破る

請負をしていたのです。また、この震災の影響で一時的に現れた職業もありました。それは震災の影響で亡くなった多くの方を運ぶ死体運搬の人夫です。給与は、被害の大きかった横浜では五圓と米一升、東京では四圓ほどでありました。

復活する大東京

大震災のために東京は殆ど全滅し、大きな被害を被ったという報道が世界に伝わると、各国は支援金を募り、国際連盟会議では日本の震災を考慮し、国際連盟に対する日本の負担額の軽減を可決するなど手厚い支援を行いました。このような支援を受けながら、東京復興のための二十億圓十五年計画が出来上がりました。今回の震災では橋の不足が悲惨事を生んだので、橋を多く新設することや道路に燃えやすい木製のものを使用しないことなど、震災に鑑みて計画が立てられました。

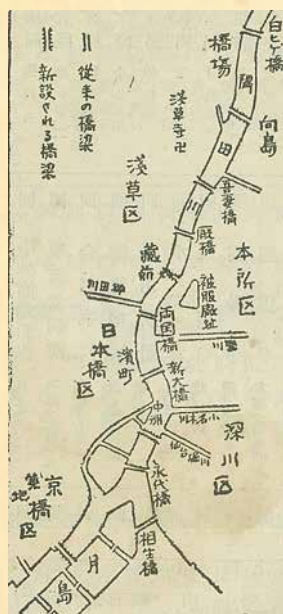
これらの古い資料は実際に手にとって閲覧いただけます。
興味のある方はお気軽にカウンターまでお声がけください。



震災後の東京の様子



職業紹介所に押しかけてきている様子



隅田川の橋の新設の図

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い！

クマなく さんぽ



文京区

熊本藩細川家ゆかりの庭園

江戸末期、肥後細川庭園一帯は、熊本藩細川家の下屋敷でした。明治15年には細川家の本邸になりましたが、その後は東京都が買収し、昭和36年に都立公園として開園した後、昭和50年に文京区に移管されました。

大きな池の周りに小道を巡らし、築山や庭石、橋、灯籠などを設けた池泉回遊式の庭園は、明治から変わらぬ風情をたたえています。熊本藩最後の御用絵師であった杉谷雪樵が庭園を描いた作品には、「小嵐山図」というタイトルが付けられており、京都の嵐山を模して造られた庭であることが伺えます。

大正ロマンの香り漂う松聲閣^{しょうせいかく}

細川家の学問所であったといわれる松聲閣は、大正時代に改修を行いました。老朽化が進んだため、耐震性の確保と歴史性を活かした保存を目的とした修復が施され、平成28年にリニューアルオープンしました。工事は、過去の写真や図面を参考にして進められました。可能な限り既存の木材を使用し、外壁には過去の写真から判明した下見板張りをを用いるなどして、大正時代の趣きを蘇らせています。

現在の松聲閣は、1階が集会室、2階が展望所になっており、誰でも利用することができます。2階の展望所からは庭園を一望でき、移りゆく四季折々の風景を楽しむことができます。

文京の地で楽しむ歴史散歩

「肥後細川庭園」という名称は、平成29年に一般公募により選定され、それまでの「新江戸川公園」から変更されたものです。園内では、江戸時代から品種改良を重ねてきた熊本独特の花である「肥後六花」のうち、肥後椿、肥後芍薬、肥後花菖蒲、肥後山茶花の4つを見ることができます。松聲閣の各部屋にも肥後六花にちなんだ名前がつけられており、この土地と熊本との深い繋がりを感じます。

かつて下屋敷だった土地には、「和敬塾本館(旧細川侯爵邸)」や、細川家に伝来する美術品を収蔵する「永青文庫」があります。近隣にも、松尾芭蕉が住んでいた「関口芭蕉庵」など、歴史と文化に触れられるスポットが点在しています。文京区に多く残る自然のなかで、歴史と文化のスポット巡りを楽しんでみてください。

幕末の熊本藩下屋敷 熊本藩細川家の学問所

「肥後細川庭園 松聲閣」^{しょうせいかく}

京都・嵐山の縮景として造られた、肥後熊本細川侯下屋敷跡「肥後細川庭園」と、そこに残るもと学問所「松聲閣」。江戸、明治、大正の時代を感じる、熊本藩ゆかりの施設です。



松の雪吊りは冬の風物詩。桜、菖蒲、紅葉と四季の風景を楽しめる。



↑ 2階の回遊式展望所「山茶花」

← 車寄せが特徴的な玄関

庭園内では さまざまなイベントを開催しています。

邸宅で見るアンティーク着物展VII 「花リレー」～いきものとともに～

11月2日(土) 13:00 ~ 18:00 (17:30最終入場)

3日(日・祝) 4日(月・休) 10:30 ~ 18:00 (17:30最終入場)

場所: 松聲閣 参加費: 500円 ※小学生以下無料

秋の紅葉ライトアップ ーひごあかりー

11月23日(土・祝) ~ 12月1日(日)
17:30 ~ 21:00

(20:30最終入場) ※小雨決行

参加費: 300円 ※未就学児無料



文京区立 肥後細川庭園 松聲閣

所在地 文京区目白台1-1-22

開園時間 庭園 2月 ~ 10月 9:00 ~ 17:00 (入園は16:30まで)

11月 ~ 1月 9:00 ~ 16:30 (入園は16:00まで)

松聲閣 9:00 ~ 21:00 (展望所は17:00まで)

休園日 12月28日から1月4日

入園料 無料 (松聲閣の施設利用料金は別途)

アクセス 都電荒川線早稲田駅より徒歩5分

東京メトロ有楽町線・江戸川橋駅または東西線・早稲田駅より徒歩15分

B一丁目・目白台一丁目より徒歩5分

都営バス早稲田より徒歩5分または

都営バスホテル椿山荘東京より徒歩7分

お問合わせ 03-3941-2010

※駐車場はございません



特集

各区の歴史や

北区



ココが
見どころ

江戸の名所～王子・滝野川・飛鳥山

江戸っ子が、四季を通して楽しんだ名所王子・滝野川・飛鳥山を、浮世絵などとともに紹介しています。花見のできる行楽地として飛鳥山を整備した、8代将軍徳川吉宗の御膳所・金輪寺の御座所では、名所王子を楽しむ庶民の様子を紹介する映像を見ることができます。

秋期企画展「古写真はわたしたちに何を伝えるのか?—写された幕末・明治の北区の名所—」日本の写真史でもごく初期の1859年に撮影された王子の料理屋・扇屋の写真など、幕末維新期に写された北区の名所の姿を紹介。

会期:令和元年10月26日(土)～12月15日(日) 会場:特別展示室・ホワイエ
休館日:11月4日を除く毎週月曜日および11月5日(火) 観覧無料

1/1サイズにこだわった 模型が伝える北区の歴史

北区や近隣地域の考古・歴史・民俗、自然、文化等を14のテーマに分けて展示しています。国指定史跡に指定された日本最大級の中里貝塚の剥ぎ取り標本や、奈良・平安時代の米倉の復元、荒川河川敷の生き物のジオラマなど、実物資料と原寸にこだわった模型により、歴史の魅力をリアルに伝えています。



北区飛鳥山博物館

所在地 北区王子一丁目1番3号
開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は直後の平日)、年末年始、臨時
入館料 一般300円、小・中・高100円、65歳以上150円、
障害者手帳提示の場合150円
(介助者1名無料)、小学生未満無料
アクセス JR王子駅より徒歩約5分
お問合わせ 03-3916-1133



博物館展示と文学館展示で 渋谷の歴史や文学を学ぶ

平成17年にリニューアルされた「白根記念渋谷区郷土博物館・文学館」は、原始・古代から現代に至るまでの渋谷の歴史と与謝野晶子など渋谷ゆかりの文学者を紹介する複合施設です。博物館展示の各ゾーンには実際に展示物に触れることができるコーナーがあり、それぞれの時代を体感することができます。



白根記念渋谷区郷土博物館・文学館

所在地 渋谷区東四丁目9番1号
開館時間 11:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は直後の平日)、年末年始
入館料 一般100円、小・中学生50円、
60歳以上の方・障がいのある方と
その介助者は無料
アクセス JR渋谷駅より徒歩約20分
お問合わせ 03-3486-2791



渋谷区



ココが
見どころ

昭和初期の繁栄からオリンピックまで

渋谷が地下鉄銀座線の開通により「ターミナル」としての性格が強まった昭和初期から、第二次世界大戦の戦禍を乗り越え1964年に開催された東京オリンピックの盛り上がりとともに再び栄えた街に至るまでの経過を、豊富な実物資料とともに紹介しています。

企画展「渋谷に残された伝説」

会期:令和元年10月22日(火)～令和2年1月13日(月・祝)
展示解説:11月2日(土)・23日(土・祝)いずれも14:00～

文化を知ろう！



江戸深川の町と暮らしを 体験できる資料館

江戸時代末の深川佐賀町の町並みを、実物大で再現した資料館です。表通りの商店や長屋、船宿、火の見櫓と火除け地など、江戸の町を形作っていた建物が並び、当時の人々の暮らしを想定した生活用品が展示されています。音と光の演出や年中行事の再現などにより、江戸の一日や一年を体験することができます。



江東区深川江戸資料館

所在地 江東区白河一丁目3番28号
開館時間 9:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
休館日 第2・第4月曜日 (祝日の場合は開館)、臨時休館あり
入館料 一般400円、小・中学生50円、障害者手帳をお持ちの方とその介助者1名は割引
アクセス 都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線
清澄白河駅より徒歩約3分
お問合わせ 03-3630-8625



ココが
見どころ

江戸の庶民の家～長屋の暮らしを再現

江戸時代の庶民の生活空間である「長屋」での暮らしを細かく再現しています。船宿で働く船頭の家(写真)のほか、あざりやしじみのむき身売る棒手振や三味線の師匠など5世帯の生活を反映した実物大の展示は、時代劇や古典落語に出てくる庶民の暮らしそのものです。

杉浦日向子の視点～江戸へようこそ～ 開催中～ 11/10(日)

生誕60年を迎えた杉浦日向子さんの多様な仕事を紹介します。

江戸のまんが 11/12(火)～2020/11/8(日)

庶民の生活に根ざし、大衆文化として花開いた江戸の漫画から、江戸庶民の生活などを紹介します。

江東区



新宿区

ココが
見どころ

昭和初期の「文化住宅」での暮らしを再現

昭和10年頃の若いサラリーマン家庭が住んでいた「文化住宅」は、小規模な和風住宅の玄関脇に、洋風の応接間をつけた和洋折衷の作りでした。台所や茶の間には、家具や家電、夕飯の乗った食卓などが配され、新宿に住む当時の人々の暮らしが忠実に再現されています。

特別展「近代測量150年記念 測量×地図 測り・描き・守り・伝える」

開催中～ 12/8(日)

150年前にスタートした国土を測る技術(測量)、描く技術(地図製作)について、古地図や測量器具等から紹介していく。

古代から昭和初期まで、 見所満載の新宿歴史紹介

区内で発掘された遺跡、江戸の宿場町「内藤新宿」のジオラマ、目覚ましい発展を遂げた昭和初期の新宿を象徴する「市電」の復元、「文化住宅」の再現など、豊富な資料とともに新宿の歴史を紹介しています。夏目漱石など新宿に住んだ数多くの文学者を紹介する「近代文学にみる新宿」展示もみどころです。



新宿区立新宿歴史博物館

所在地 新宿区四谷三栄町12-16
開館時間 9:30 ~ 17:30 (入館は17:00まで)
休館日 第2・4月曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始、
改修工事のための臨時休館 12月16日(月)～令和2年3月13日(金)
常設展観覧料 一般300円、小・中学生100円、
障がい者およびその介助者は無料
アクセス JR四ツ谷駅より徒歩10分
お問合わせ 03-3359-2131



23区には魅力あふれる歴史と文化が盛りだくさん。
今回は北区・江東区・品川区・渋谷区・新宿区・杉並区の
計6区を特集するよ。

品川区



ココが
見どころ

東海道第一番目の宿場町「品川宿」の模型

1845年頃の「品川宿」の宿並を、葛飾北斎や歌川広重らが描いた当時の錦絵や本の挿絵などを参考にして精巧に再現しています。一軒一軒中まで作りこまれた旅籠屋や水茶屋、店の前を行き交う参勤交代の大名や旅人などが、江戸時代後期の品川宿の賑わいを今に伝えています。

特別展「中世寺院と品川—妙国寺の歴史と寺宝—」 10/6(日)～12/1(日)

中世を代表する大寺院である南品川の妙国寺(現・天妙国寺)の資料を中心に、中世から近世にかけての品川の歴史を紹介します。

※特別展期間中の観覧料は一般300円、小・中学生100円となります。

古代から近現代まで、 栄え続けた品川を知る

日本考古学発祥の地といわれる「大森貝塚」と、東海道の宿場として栄えた「品川宿」を中心とした常設展示では、原始・古代から現代に至る品川の歴史を学ぶことができます。江戸内湾有数の港町として栄えた中世の品川を知ることのできる展示資料も必見です。



品川区立品川歴史館

所在地	品川区大井六丁目11番1号
開館時間	9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日、祝日(日曜日の場合は開館、月曜日の場合は翌日も休館)、年末年始、展示替期間
観覧料	一般100円、小・中学生50円、70歳以上の方・障がいのある方は無料
アクセス	JR大森駅より徒歩10分
お問合わせ	03-3777-4060



3万5千年にわたる杉並の 歴史をコンパクトに紹介

1989年、都立和田堀公園の中に開館した杉並区立郷土博物館は、人々が暮らし始めたおよそ3万5千年前から続く杉並の歴史を紹介する施設です。常設展示では、区内から出土した遺物や、甲州道中高井戸宿の復元模型、昭和初期に杉並に移り住んだ文化人による阿佐ヶ谷会関連の資料などを見ることができます。



杉並区立郷土博物館

所在地	杉並区大宮一丁目20番8号
開館時間	9:00～17:00
休館日	月曜日・第3木曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
入館料	100円、中学生以下は無料
アクセス	京王井の頭線永福町駅・JR高円寺駅よりバス「都立和田堀公園」下車徒歩5分
お問合わせ	03-3317-0841



杉並区



ココが
見どころ

古民家「旧篠崎家住宅主屋」の復原

江戸時代の農家を解体復原した「旧篠崎家住宅主屋」は、杉並区の指定有形文化財となっています。建築年代は、江戸時代の寛政年間(1789～1800年)頃と推定されます。文化財活用と維持のため、土日祝日の午後はいりりに火を入れ、年中行事の展示や体験イベントも多数開催しています。

開館30周年記念特別展 陽明文庫名品展 豫楽院近衛家熙の風雅 10/26(土)～12/1(日)

陽明文庫の全面協力により、近衛家熙遺愛茶杓筆筒を公開。筆筒に収められた31点の茶杓全点を一堂に公開する初めての展覧会です。

特別区自治情報・交流センターからのご案内

特別区自治情報・交流センターでは、様々な講座や企画を開催しています。ぜひご参加ください。

※講座や企画の詳細は(公財)特別区協議会ホームページ(HP)をご覧ください。

東京区政会館1階展示スペース

東京区政会館1階エントランスホールで各種展示を行っています。

どなたでも自由にご覧いただけます。

開催時間 平日|9:00～20:30 土曜日|9:00～17:00 日曜日・祝日|休館

(公財)特別区協議会HP <http://www.tokyo-23city.or.jp/>

北区と深谷市 パネル展示

～新一万円札の顔渋沢栄一翁が繋ぐ～

主 催 北区、深谷市

(公財)特別区協議会

日 時 令和元年10月1日(火)～11月2日(土)

東京都公文書館紹介展示

～首都東京の歴史的景観Ⅱ～

主 催 東京都公文書館

(公財)特別区協議会

日 時 令和元年11月12日(火)～12月21日(土)

「茨城ふるさとフェア」を実施します

茨城県8自治体(水戸市、日立市、常陸太田市、常陸大宮市、鉾田市、茨城町、大洗町、大子町)と茨城県アンテナショップが出展する「茨城ふるさとフェア」を実施します。特産品の販売のほか、観光情報のPRなど、茨城県の魅力をご紹介できるイベントです。

茨城県のおいしい物産が集まります。是非ご来場ください。

日時 令和元年10月17日(木) 11:00～15:00

(荒天の場合は中止)

場所 東京区政会館前オープンスペース

主催 特別区協議会、茨城県

後援 千代田区



編集後記

前号から「各区の歴史や文化を知ろう!」をテーマに各区の歴史や文化を展示紹介している施設を紹介しています。常設展示の内容はもちろん直近の企画展示の情報も紹介していますので、ぜひ出かけてみてください。(K、K&H)



特別区自治情報・交流センター

千代田区飯田橋3-5-1 東京区政会館

開館時間: (4階)9:30～20:30

(土曜日は9:30～17:00)

休館日: 日曜日、祝日、年末年始等

One23に掲載されている各種資料等の情報はコチラ

<http://www.research.tokyo-23city.or.jp/>



東京メトロ 東西線 飯田橋駅 A5出口すぐ
東京メトロ 有楽町線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
東京メトロ 南北線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
都営地下鉄 大江戸線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
JR中央・総武線 飯田橋駅 東口徒歩5分